

ワイマールからお客様が来湘

この度ワイマールから来られたのは次の4名です。

Mr. Lohmann 副会長

鎌田哲男副会長代理・晶代夫人

Mr. Wolff 会員、 Ms. Hartwig 会員

湘南日独協会からはすでに一昨年と昨年の2度にわたって代表団がワイマール市を訪問していますが、当協会の創立総会の折りについでワイマールからも2度目の公式訪問でした。4月22日には鎌倉観光の後、七里ヶ浜のレストランでワイマールからの一行を迎えて音楽演奏を交えた歓迎会を開き、友好を深めました。ワイマールと日独・独日協会を通しての交流が今後ますます発展して行くことが期待されます。



ワイマールからの一行を迎えて歓迎会を開催

なお、翌4月23日にはワイマール市からの一行は鎌倉市役所に竹内市長を表敬訪問し、古都ワイマールと古都鎌倉が同じような文化環境にあるところから国際親善都市提携の調印が行われました。この国際親善都市提携は両市の市民レベルでの活発な交流が前提となっており、湘南日独協会の活動が大きな役割を果たしたものと申せましょう。

鎌倉市での調印を終えた一行は高德院・大仏へ向かい、大仏の迎賓館で盆石セレモニーやティーセレモニーを体験、日本文化の一端に触れて和やかなひとときを過ごしました。

(川本理事 記)

湘南日独協会 2001 年度活動予定

■ 6月23日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 7月28日(土) 「ドイツフェア」 18:30～

会場 湘南ホテル

■ 8月25日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 9月22日(土) 講演会 13:30～

演題 「歴史を書き換えるか？」

ゲーテンベルクの発明に関する新説

講師 高宮利行 (慶應義塾大学教授)

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 10月27日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 11月24日(土) 講演会

演題 仮題「ベルリンの壁が壊れたとき」

講師 大島陽一氏 (帝京大学教授)

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 12月 日程未定 忘年懇話会

■とちぎ日独協会がビーレフェルト独日協会と友好調印

当協会はワイマール独日協会と姉妹協会ですが、この程とちぎ日独協会がビーレフェルト独日協会と友好調印を行いました。ビーレフェルトにはペーテルというテンカン療養施設があり、ここに当協会からもささやかながら寄金をしています。

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL. 3 . NO. 3 . 通巻15 . 発行 2001.5.26.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shōnan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第15回例会

演奏会

ドイツ歌曲の午後

今回のコンサートでは梶井ご夫妻によるリートあり、オペラアリアありのドイツの歌の数々ををお楽しみ頂きましょう。

日時 5月26日(土) 14:00～16:00

演奏 梶井龍太郎 (テノール)

梶井 智子 (ソプラノ)

渡辺久仁子 (ピアノ)

松野美智子 (バイオリン)

会場 鎌倉商工会議所地階ホール

主催 湘南日独協会

今年もドイツフェアがやってくる!

恒例となった夏のビアイベント「ドイツフェア」が間もなく今年もやって来ます。詳細は次号でご紹介致しますが、日程は下記の通りですから今から手帳に記入してご予約下さい。

今年のドイツフェア 7月28日(土)

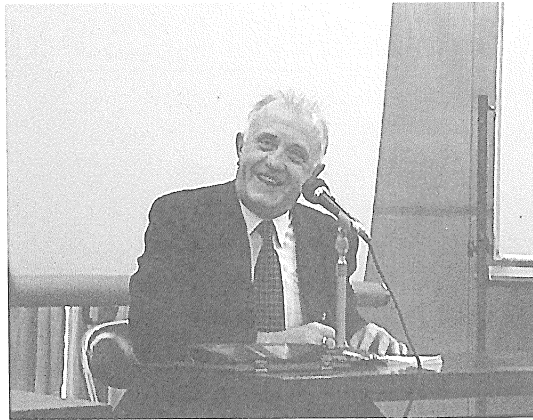
18:00 開場 18:30 開宴

「近代のドイツ精神史 および 文化史における日本」

※前号からの続き……

モーツァルトは若いときザルツブルグで高山右近やティトウス・レディ・豊後を扱ったイエズス会演劇を見ています。その音楽はミヒアエル・ハイドンが作曲したのですが、1770年と74年に2回上演されました。その演出の中に日本の舞がありました。多分その舞は着物を着て舞ったのではないかと思います。このようなことからモーツァルトは日本に関する情報を持っていたと考えられます。その上、モーツァルトは東インド会社の社長の援助を得てパリ旅行をしています。そのとき日本に滞在したことがある社長の長男といつも一緒にあったことをモーツァルトは父親への手紙に書いています。その長男からモーツァルトは面白い話をたくさん聞いたに違いありません。

当時の思想家マティアス・クラウジウスは「日本皇帝の謁見についての報告」という本を書きましたが、これは嘘で、彼は日本を訪れたことはありません。しかし、彼が云いたかったことは、日本は啓蒙された国で、啓蒙された君主の支配のもとで平和的に生活しているし、宗教的争いは見られないということなのです。その文章の中に次のようなくだりがあります。「日本の皇帝曰く“聞くところによると私が尊敬するレッシングはドイツで大変な迫害を受けている。もしよろしければレッシングにぜひ日本に来てほしいと伝えてください。われわれの国では誰が何を言ってよいのです”」。この文章からヨーロッパ批判が読み取れるのです。ジョナサン・スウィフトのガリバー旅行記にもヨーロッパ批判が見られます。その批判は、オランダ



ボン大学教授 ヨーゼフ・クライナー博士

人は小さな漆の手箱を手に入れるために自分の主たる神を売ってしまうといったものです。日本は啓蒙された国というケンペルによってもたらされた日本のイメージは当時のヨーロッパのインテリ層にあったのです。想像でしかありませんが、モーツァルトもザラストロを第6代将軍（啓蒙された将軍）と比肩しているかもしれませんね。

モーツァルトの時代に日本観はがらりと変わります。たとえば、プロシャのフリードリッヒ大王とポルティは互いに中国や日本の名前を付けて文通していましたが、あるときポルティは大王から次のような冷たい返事をもらいます。「貴方はまだそれを超えないのか。世界の政治は今も将来もヨーロッパで決まる。だから日本について語るのは暇潰し以外の何物でもない。」このように日本に対するヨーロッパのイメージが変わりました。以前はヨーロッパは宗教心を失ったとか、お金ばかりに走っているとか、そういったヨーロッパ批判が中心であって、日本は高く評価されていたのですが、ヨーロッパに自信が付き始めて、われわれが世界の中心になって政治を決めるのだから、日本については話題にする必要がないという考え方が出てきたのです。

しかし、しばらくして、シーボルトは新たに日本を再発見します。特に、明治時代に入ると印象派をはじ

め、ユーゲント・スティール、アール・ヌーヴォー、20世紀にはバウハウスなど建築家は日本の美を発見してヨーロッパに紹介するようになります。ドイツと日本の400年に及ぶ交流の歴史を考えてみますと、最初はポジティブな日本観で始まりヨーロッパの模範としていたのが、日本の鎖国とともに、日本は遅れているという考え方に転じ、19世紀に入ると、遅れているが美術工芸の面ではヨーロッパをはるかに越えているといった、また模範にされる。最近の30年にはその波はもっと激しくなっています。日本が経済成長期に入ると当時のドイツの経済大臣ラングスドルフは「日本に学べ」と叫び、バブルになったらそれがもっとひどくなり、バブルが崩壊したら「日本はもう駄目だ」ということになるのです。400年の間にはアップ・アンド・ダウンがありましたが、最近の波は岸边に打ち寄せる波のように大きくて頻繁になってきました。（完）

（この後、スライドでヨーロッパに所蔵されている日本の工芸品の説明があった。）

ミュージカルプレイ

「マレーネ」

ーディートリッヒ伝説ー

「マレーネ」は歴史的女優マレーネ・ディートリッヒが故郷ベルリンで開いて伝説化しているコンサートを舞台化したドイツの音楽劇。話題の日本公演のうち東京公演はつぎのとおりです。

日時 2001.6/6(水)～14(木) 14:00～、19:00～

会場 アートスフィア(東京モノレール天王洲アイル駅より徒歩1分。)

料金 S:¥8,000 A:¥6,000 全席指定

チケット アートスフェアチケットセンター

TEL 03-5460-9999